

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	漢字・一般常識	
実務家教員授業		
学部・学科	保育専攻学科	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必修	
授業方法	講義	
授業時間	20時間	
授業回数	10回	
授業概要	一般教養として、社会で求められる漢字の知識を身に付ける。	
授業の進め方	問題集に基づき、指定された範囲の確認テストを実施する。	
達成目標	日本ビジネス技能検定協会漢字検定2級に合格する。	
教科書	問題集・プリント	
特記		
授業計画	1	訓読み・送り仮名
	2	熟語
	3	異字同訓・同音異義
	4	誤字訂正1
	5	誤字訂正2・類義語
	6	反対語
	7	漢字の意味・使い方
	8	項目別模擬試験1
	9	直前模擬試験1
	10	直前模擬試験2
成績評価方法 (試験実施方法)	模擬試験100% 模擬試験における得点で評価	
備考		

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容	
授業科目	パソコン実習	
実務家教員授業		
学部・学科	保育専攻学科	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	必修	
授業方法	演習	
授業時間	20時間	
授業回数	10回	
授業概要	パソコンでの演習を通して操作方法を学ぶ	
授業の進め方	テキスト、配布プリントを使用して実践力を養う	
達成目標	卒業後必要となる知識・技術を身につける	
教科書	オリジナルテキスト、配布プリント	
特記		
授業計画	1	パソコンの基本的操作とインターネットの利用法、ネチケット
	2	文書の作成と管理
	3	一般的なビジネス文書の作成
	4	シンプルなレポートや報告書の作成
	5	ビジネス文書の作成方法の復習
	6	イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成
	7	写真の挿入や加工方法①
	8	画像の編集方法①
	9	H P の作成・活用方法①
	10	H P の作成・活用方法②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と課題提出、試験により評価する。	
備考		

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	コミュニケーション概論 I
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	円滑な人間関係の基本となるコミュニケーションスキルを学び、演習を通してスキルの向上を図る。
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識・スキルの定着を図る。
達成目標	保育者として自己表現ができるようになる。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 コミュニケーションとは 2 コミュニケーションの必要性① 3 コミュニケーションの必要性② 4 自己紹介① 5 自己分析① 6 自己分析② 7 自己分析③ 8 自己分析④ 9 他己紹介① 10 他己紹介② 11 他己分析① 12 他己分析② 13 自己の長所の抽出① 14 自己の長所の抽出② 15 自己の長所の抽出③ 16 会話技術の向上(ロールプレー)① 17 会話技術の向上(ロールプレー)② 18 会話技術の向上(ロールプレー)③ 19 会話技術の向上(ロールプレー)④ 20 会話技術の向上(ロールプレー)⑤ 21 幼児との関わり① 22 幼児との関わり② 23 幼児との関わり③ 24 保育現場でのコミュニケーションとは 25 コミュニケーションをとる対象者 26 幼児とのコミュニケーションポイント 27 幼児とのコミュニケーション実践① 28 幼児とのコミュニケーション実践② 29 幼児とのコミュニケーション実践③ 30 幼児とのコミュニケーション実践③ 31 幼児とのコミュニケーション実践④ 32 保護者とのコミュニケーションポイント 33 保護者とのコミュニケーション実践① 34 保護者とのコミュニケーション実践② 35 保護者とのコミュニケーション実践③ 36 保護者とのコミュニケーション実践④ 37 保護者とのコミュニケーション実践⑤ 38 保育職員とのコミュニケーションポイント 39 保育職員とのコミュニケーション実践① 40 保育職員とのコミュニケーション実践②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と課題提出、試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	図画工作
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	図画工作の基礎を学ぶ
授業の進め方	個人作成、グループ作成
達成目標	絵画、工作の基礎技術を身につける
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 デッサン（静物）① 2 デッサン（静物）② 3 デッサン（自画像）① 4 デッサン（自画像）② 5 デッサン（自画像）③ 6 絵の具を使った絵画① 7 絵の具を使った絵画② 8 絵の具を使った絵画③ 9 工作（切り紙）① 10 工作（切り紙）② 11 工作（切り紙）③ 12 工作（行事に合わせて）① 13 工作（行事に合わせて）② 14 工作（行事に合わせて）③ 15 工作（廃材使用）① 16 工作（廃材使用）② 17 工作（廃材使用）③ 18 年齢に合った制作① 19 年齢に合った制作② 20 年齢に合った制作③
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と作品（制作物）により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	ビジネスマナー
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	業界、企業、施設で必要なマナーを演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	社会人としての意識の向上を図る
教科書	オリジナルテキスト・配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会人と学生との違い(働くとは)① 2 社会人と学生との違い(働くとは)② 3 社会人としての心構え① 4 社会人としての心構え② 5 仕事選びの基準① 6 仕事選びの基準② 7 業界研究① 8 業界研究② 9 業界研究③ 10 企業研究① 11 企業研究② 12 企業研究③ 13 企業研究④ 14 企業研究⑤ 15 様々な社会保障について① 16 様々な社会保障について② 17 様々な社会保障について③ 18 様々な社会保障について④ 19 他業種との連携① 20 他業種との連携② 21 他業種との連携③ 22 他業種との連携④ 23 業界時事① 24 業界時事② 25 業界時事③ 26 業界時事④ 27 業界時事⑤ 28 業界時事⑥ 29 模擬効果測定 30 効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	ボランティア概論
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	ボランティア活動について学び、体験を通して対応スキルを向上させる
授業の進め方	ボランティアの概要を理解し外部施設でボランティア活動を行う
達成目標	ボランティアマインドを講義で理解し実践を通して身に付ける
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティア活動とは 2 ボランティア活動と実習の違い 3 ボランティア活動の心構え① 4 ボランティア活動の心構え② 5 さまざまなボランティア 6 ボランティア活動方法① 7 ボランティア活動方法② 8 ボランティア活動方法③ 9 学内ボランティア実践又は外部ボランティア① 10 学内ボランティア実践又は外部ボランティア② 11 学内ボランティア実践又は外部ボランティア③ 12 学内ボランティア実践又は外部ボランティア④ 13 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑤ 14 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑥ 15 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑦ 16 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑧ 17 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑨ 18 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑩ 19 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑪ 20 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑫ 21 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑬ 22 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑭ 23 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑮ 24 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑯ 25 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑰ 26 学内ボランティア実践又は外部ボランティア⑱ 27 ボランティア活動報告① 28 ボランティア活動報告② 29 ボランティア活動報告③ 30 ボランティア活動報告④
成績評価方法 (試験実施方法)	出席とレポートにより評価する。
備考	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	卒業研究
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業コマ数	15コマ
授業概要	個人・グループにて研究項目を選択し、研究を進めより知識を深める
授業の進め方	個人研究、グループ研究、全体発表
達成目標	卒業後必要となる知識・技術の理解を深める
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 卒業研究に関する学習の進め方 2 研究テーマの理解 3 研究テーマの決定 4 研究テーマの個人研究① 5 研究テーマの個人研究② 6 研究テーマの個人研究③ 7 研究テーマの個人研究④ 8 研究テーマの個人研究⑤ 9 グループ研究① 10 グループ研究② 11 グループ研究③ 12 グループ研究④ 13 グループ研究⑤ 14 研究発表① 15 研究発表②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席とレポートにより評価
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	実習指導 I
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	施設実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ
授業の進め方	グループワークと実技演習
達成目標	施設内で行う施設職員の様々な職業内容を理解する
教科書	実習の記録と指導案、保育専門職と保育実践、配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習の概要・意義・目的の確認 2 実習先研究① 3 実習先研究② 4 実習先研究③ 5 実習生としての心構えの確認 6 実習生マナー① 7 実習生マナー② 8 実習生マナー③ 9 実習計画について 10 実習計画に基づく保育実践 11 考察について 12 考察について 13 日誌・記録の取り方① 14 日誌・記録の取り方② 15 日誌・記録の取り方③
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	保育・幼稚園実習 I
実務家教員授業	○
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	施設職員として必要な基礎知識や基礎技術を学ぶ
授業の進め方	有識者の指導を基に実践的な知識や技術を学ぶ
達成目標	施設内で行う施設職員の様々な業務内容を理解し、実践できるようにする
教科書	実習の記録と指導案、保育専門職と保育実践、実習日誌
特記	実務家教員は福祉施設等で勤務している現役の職員
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現場実習 (オリエンテーション) ① 2 現場実習 (オリエンテーション) ② 3 現場実習 (オリエンテーション) ③ 4 現場実習 (見学・観察) ① 5 現場実習 (見学・観察) ② 6 現場実習 (見学・観察) ③ 7 現場実習 (見学・観察) ④ 8 現場実習 (見学・観察) ⑤ 9 現場実習 (見学・観察) ⑥ 10 現場実習 (見学・観察) ⑦ 11 現場実習 (見学・観察) ⑧ 12 現場実習 (見学・観察) ⑨ 13 現場実習 (見学・観察) ⑩ 14 現場実習 (参加体験) ① 15 現場実習 (参加体験) ② 16 現場実習 (参加体験) ③ 17 現場実習 (参加体験) ④ 18 現場実習 (参加体験) ⑤ 19 現場実習 (参加体験) ⑥ 20 現場実習 (参加体験) ⑦ 21 現場実習 (参加体験) ⑧ 22 現場実習 (参加体験) ⑨ 23 現場実習 (参加体験) ⑩ 24 現場実習 (参加体験) ⑪ 25 現場実習 (参加体験) ⑫ 26 現場実習 (参加体験) ⑬ 27 現場実習 (参加体験) ⑭ 28 現場実習 (参加体験) ⑮ 29 現場実習 (部分実習) ① 30 現場実習 (部分実習) ② 31 現場実習 (部分実習) ③ 32 現場実習 (部分実習) ④ 33 現場実習 (部分実習) ⑤ 34 現場実習 (部分実習) ⑥ 35 現場実習 (部分実習) ⑦ 36 現場実習 (部分実習) ⑧ 37 現場実習 (部分実習) ⑨ 38 現場実習 (部分実習) ⑩ 39 現場実習 (部分実習) ⑪ 40 現場実習 (部分実習) ⑫
成績評価方法 (試験実施方法)	実習内容・実習簿評価により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	小児援助技術 I
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	乳児、幼児とのかかわり方を演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	子どもの個別対応方法を身につける
教科書	保育所保育指針、子どもの発達理解と援助
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育における子どもの理解 2 表現演習① 3 子どもに対する関わりと共感的理解 4 表現演習② 5 子どもの生活や遊び 6 表現演習③ 7 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 8 表現演習④ 9 子ども相互の関わりと関係づくり 10 表現演習⑤ 11 集団における経験と育ち 12 個別援助① 13 個別援助② 14 発達における葛藤やつまずき 15 個別援助③ 16 個別援助④ 17 保育の環境の理解と構成 18 個別援助⑤ 19 個別援助⑥ 20 環境の変化や移行 21 個別援助⑦ 22 個別援助⑧ 23 子ども理解のための観察・記録と省察・評価 24 個別援助⑨ 25 個別援助⑩ 26 子ども理解のための職員間の対話 27 個別援助⑪ 28 個別援助⑫ 29 子ども理解のための保護者との情報共有 30 個別援助⑬ 31 個別援助⑭ 32 発達の課題に応じた援助と関わり 33 個別援助⑮ 34 個別援助⑯ 35 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 36 個別援助⑰ 37 個別援助⑱ 38 発達の連続性と就学への支援 39 模擬効果測定 40 効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	小児援助技術Ⅱ
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	小児援助技術Ⅰで学んだ基礎を基に、自ら乳児、幼児とのかかわり方を考える
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	自ら対応方法の計画を立て対応方法を身につける
教科書	保育所保育指針、子どもの発達理解と援助
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども理解と保育のつながり① 2 子ども理解と保育のつながり② 3 子ども理解と保育のつながり③ 4 子どもの活動内容① 5 子どもの活動内容② 6 子どもの活動内容③ 7 子どもの活動内容④ 8 場面を想定した保育の活動内容の実践① 9 場面を想定した保育の活動内容の実践② 10 場面を想定した保育の活動内容の実践③ 11 場面を想定した保育の活動内容の実践④ 12 指導案の作成① 13 指導案の作成② 14 指導案の作成③ 15 指導案の作成④ 16 指導案の作成⑤ 17 指導案の作成⑥ 18 指導案の作成⑦ 19 指導案の作成⑧ 20 指導案の作成⑨ 21 指導案の作成⑩ 22 指導案に基づく実技① 23 指導案に基づく実技② 24 指導案に基づく実技③ 25 指導案に基づく実技④ 26 指導案に基づく実技⑤ 27 指導案に基づく実技⑥ 28 指導案に基づく実技⑦ 29 指導案に基づく実技⑧ 30 指導案に基づく実技⑨ 31 指導案に基づく実技⑩ 32 指導案に基づく実技⑪ 33 指導案に基づく実技⑫ 34 指導案に基づく実技⑬ 35 指導案に基づく実技⑭ 36 指導案に基づく実技⑮ 37 指導案に基づく実技⑯ 38 指導案に基づく実技⑰ 39 指導案に基づく実技⑱ 40 効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	小児援助実践
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	小児援助技術で学んだ基礎を基に、保育士としての援助や態度の基本を理解し、演習する
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	子どもの発達状況に応じた援助実践について理解する
教科書	保育所保育指針、子どもの発達理解と援助
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども理解のための観察・記録と評価① 2 子ども理解のための観察・記録と評価② 3 子ども理解のための観察・記録と評価③ 4 子ども理解のための観察・記録と評価④ 5 子ども理解のための観察・記録と評価⑤ 6 子ども理解のための観察・記録と評価⑥ 7 子ども理解のための観察・記録と評価⑦ 8 子ども理解のための観察・記録と評価⑧ 9 子ども理解のための観察・記録と評価⑨ 10 子ども理解のための観察・記録と評価⑩ 11 発達の課題に応じた援助と関わり① 12 発達の課題に応じた援助と関わり② 13 発達の課題に応じた援助と関わり③ 14 発達の課題に応じた援助と関わり④ 15 発達の課題に応じた援助と関わり⑤ 16 発達の課題に応じた援助と関わり⑥ 17 発達の課題に応じた援助と関わり⑦ 18 発達の課題に応じた援助と関わり⑧ 19 発達の課題に応じた援助と関わり⑨ 20 発達の課題に応じた援助と関わり⑩ 21 子どもを理解する視点を考える① 22 子どもを理解する視点を考える② 23 子どもを理解する視点を考える③ 24 子どもを理解する視点を考える④ 25 子どもを理解する視点を考える⑤ 26 子どもに対する共感的理解について① 27 子どもに対する共感的理解について② 28 子どもに対する共感的理解について③ 29 子どもに対する共感的理解について④ 30 子どもに対する共感的理解について⑤ 31 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について① 32 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について② 33 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について③ 34 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について④ 35 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑤ 36 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑥ 37 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑦ 38 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑧ 39 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑨ 40 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について⑩
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	障害児援助論
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	障害児や障害者の支援方法を学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	障害への理解と援助方法を理解する
教科書	社会的養護と障害児保育
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 対象別にみた障害の理解① 2 対象別にみた障害の理解② 3 対象別にみた障害の理解③ 4 対象別にみた障害の理解④ 5 対象別にみた障害の理解⑤ 6 障害児(者)自立支援① 7 障害児(者)自立支援② 8 障害児(者)自立支援③ 9 障害児(者)自立支援④ 10 障害児(者)自立支援⑤ 11 事例研究① 12 事例研究② 13 事例研究③ 14 事例研究④ 15 事例研究⑤ 16 支援者の理解① 17 支援者の理解② 18 支援者の理解③ 19 支援者の理解④ 20 障害児(者)福祉の今後の課題
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	保育実践演習
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	保育実習体験を振り返り、場面ごとの子どもとの対応シミュレーションを行う
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	場面に応じた子どもの対応方法を身につける
教科書	保育専門職と保育実践
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実技実践とは 2 保育園実習経験から保育実践を振り返る① 3 保育園実習経験から保育実践を振り返る②（グループワーク） 4 児童福祉施設実習経験から保育実践を振り返る① 5 児童福祉施設実習経験から保育実践を振り返る②（グループワーク） 6 保育者としての配慮① 7 保育者としての配慮② 8 保育場面に応じた対応実践① 9 保育場面に応じた対応実践② 10 保育場面に応じた対応実践③ 11 保育場面に応じた対応実践④ 12 保育場面に応じた対応実践⑤ 13 保育場面に応じた対応実践⑥ 14 保育場面に応じた対応実践⑦ 15 保育場面に応じた対応実践⑧ 16 保育場面に応じた対応実践⑨ 17 保育場面に応じた対応実践⑩ 18 保育場面に応じた対応実践⑪ 19 保育場面に応じた対応実践⑫ 20 保育場面に応じた対応実践⑬ 21 保育場面に応じた対応実践⑭ 22 保育場面に応じた対応実践⑮ 23 保育場面に応じた対応実践⑯ 24 保育場面に応じた対応実践⑰ 25 保育場面に応じた対応実践⑱ 26 保育場面に応じた対応実践⑲ 27 保育場面に応じた対応実践 振り返り①（グループワーク） 28 保育場面に応じた対応実践 振り返り②（個人学習） 29 保育場面に応じた対応実践 振り返り③（個人学習） 30 保育場面に応じた対応実践 振り返り④（まとめ）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	保育相談支援
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	相談援助が必要な方に対する支援方法を学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	相談支援に必要な知識、技術、支援方法を理解する
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談支援の基本 2 相談支援が必要な様々な場面 3 相談支援に必要な技術① 4 相談支援に必要な技術② 5 相談支援に必要な技術③ 6 相談支援に必要な技術④ 7 DVの事例およびその保護者相談支援① 8 DVの事例およびその保護者相談支援② 9 DVの事例およびその保護者相談支援③ 10 障害受容の事例および保護者相談支援① 11 障害受容の事例および保護者相談支援② 12 障害受容の事例および保護者相談支援③ 13 個人面談について 14 個人面談事例研究 15 相談援助のまとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	言語表現
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	保育所保育指針に示す5領域のうち「表現」について演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	対象年齢に合わせた言葉掛けやアプローチ方法を身につける
教科書	保育所保育指針
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 表現とは 2 5領域における表現① 3 5領域における表現② 4 素話① 5 素話② 6 素話③ 7 様々な表現① 8 様々な表現② 9 様々な表現③ 10 様々な表現④ 11 様々な表現⑤ 12 様々な表現⑥ 13 年齢に合わせた言葉掛け① 14 年齢に合わせた言葉掛け② 15 効果測定
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業概要(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	子どもの保健Ⅲ
実務家教員授業	○
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業コマ数	15コマ
授業概要	人体の基本的な仕組みや働き及び疾病について理解する
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	人体構造の基礎と子どものかかりやすい疾病を理解する
教科書	子どもの健康と安全、厚生労働省が発信する関連ガイドライン
特記	看護師として実務経験を有する教員
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人体の仕組み：構造① 2 人体の仕組み：構造② 3 人体の仕組み：構造③ 4 人体の仕組み：構造④ 5 人体の働き：機能① 6 人体の働き：機能② 7 人体の働き：機能③ 8 人体の働き：機能④ 9 疾病予防の基本 10 主な疾病と対応① 11 主な疾病と対応② 12 主な疾病と対応③ 13 主な疾病と対応④ 14 主な疾病と対応⑤ 15 確認テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	乳児保育Ⅱ
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	乳児保育の理論・知識、乳児期における大人の役割等を理解し、保育現場での具体的課題を学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	乳児期における発育・発達を理解し、技術を習得する
教科書	保育所保育指針解説
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳児保育の理念と歴史、役割 2 保育所における乳児保育の現状と課題 3 乳児期の環境と人間関係 4 乳児期の全体的な計画と指導計画① 5 乳児期の全体的な計画と指導計画② 6 乳児保育の保育技術① 食事 沐浴 7 乳児保育の保育技術② 排泄 8 子どもに対する共感的理解について① 9 子どもに対する共感的理解について② 10 子どもを理解する視点を考える① 11 子どもを理解する視点を考える② 12 子ども相互の関わりと関係づくりを築くための保育士の働きかけ① 13 子ども相互の関わりと関係づくりを築くための保育士の働きかけ② 14 子育て支援・家庭支援における子どもの理解① 15 子育て支援・家庭支援における子どもの理解②
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	児童レクリエーション
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	環境ごとの児童とのかかわり方を演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	環境の特徴を生かした児童のかかわり方を身につける
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童に必要な環境構成① 2 児童に必要な環境構成② 3 児童に必要な環境構成③ 4 健康に配慮した環境とは① 5 健康に配慮した環境とは② 6 健康に配慮した環境とは③ 7 安心・安全な環境とは① 8 安心・安全な環境とは② 9 安心・安全な環境とは③ 10 異年齢の集団に対する援助実践① 11 異年齢の集団に対する援助実践② 12 異年齢の集団に対する援助実践③ 13 レクリエーション支援の理論① 14 レクリエーション支援の理論② 15 レクリエーション支援の理論③ 16 レクリエーション支援の理論④ 17 レクリエーション支援の理論⑤ 18 レクリエーション支援の方法① 19 レクリエーション支援の方法② 20 レクリエーション支援の方法③ 21 レクリエーション支援の方法④ 22 レクリエーション支援の方法⑤ 23 屋内でのレクリエーション実践① 24 屋内でのレクリエーション実践② 25 屋内でのレクリエーション実践③ 26 屋内でのレクリエーション実践④ 27 屋内でのレクリエーション実践⑤ 28 屋内でのレクリエーション実践⑥ 29 屋内でのレクリエーション実践⑦ 30 屋外でのレクリエーション実践① 31 屋外でのレクリエーション実践② 32 屋外でのレクリエーション実践③ 33 屋外でのレクリエーション実践④ 34 屋外でのレクリエーション実践⑤ 35 屋外でのレクリエーション実践⑥ 36 屋外でのレクリエーション実践⑦ 37 季節を考慮したレクリエーション実践① 38 季節を考慮したレクリエーション実践② 39 季節を考慮したレクリエーション実践③ 40 季節を考慮したレクリエーション実践④
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	児童レクリエーションⅡ
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	自ら設定した対象に対し、援助計画の立案、実践の流れを演習を通して学ぶ
授業の進め方	問題演習と解説に加え、グループワークや実践トレーニングを通して実践力を養う
達成目標	対象の研究、援助計画の立案、実践技術を一連の流れを通して身につける
教科書	配布プリント・資料
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 援助計画について① 2 援助計画について② 3 援助計画について③ 4 対象に合わせたレクリエーション計画の作成① 5 対象に合わせたレクリエーション計画の作成② 6 対象に合わせたレクリエーション計画の作成③ 7 対象に合わせたレクリエーション計画の作成④ 8 対象に合わせたレクリエーション計画の作成⑤ 9 対象に合わせたレクリエーション計画の作成⑥ 10 対象に合わせたレクリエーション計画の作成⑦ 11 対象に合わせたレクリエーション実践① 12 対象に合わせたレクリエーション実践② 13 対象に合わせたレクリエーション実践③ 14 対象に合わせたレクリエーション実践④ 15 対象に合わせたレクリエーション実践⑤ 16 対象に合わせたレクリエーション実践⑥ 17 対象に合わせたレクリエーション実践⑦ 18 対象に合わせたレクリエーション実践⑧ 19 対象に合わせたレクリエーション実践⑨ 20 対象に合わせたレクリエーション実践⑩
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	発達心理学
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	養護を実践している施設の現状を理解し、そこで必要なスキルを学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	成長の段階での養護について把握する
教科書	社会的養護と障害児保育
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児の発達段階① 2 小児の発達段階② 3 小児の発達段階③ 4 小児の発達段階④ 5 小児の発達段階⑤ 6 認知の発達① 7 認知の発達② 8 認知の発達③ 9 認知の発達④ 10 認知の発達⑤ 11 小児の心理① 12 小児の心理② 13 小児の心理③ 14 小児の心理④ 15 小児の心理⑤ 16 感情の発達① 17 感情の発達② 18 感情の発達③ 19 感情の発達④ 20 感情の発達⑤ 21 自己の発達① 22 自己の発達② 23 自己の発達③ 24 自己の発達④ 25 自己の発達⑤ 26 言語と思考の発達① 27 言語と思考の発達② 28 言語と思考の発達③ 29 言語と思考の発達④ 30 言語と思考の発達⑤ 31 遊びの発達と人間関係① 32 遊びの発達と人間関係② 33 遊びの発達と人間関係③ 34 遊びの発達と人間関係④ 35 遊びの発達と人間関係⑤ 36 地域医療・地域福祉の活用① 37 地域医療・地域福祉の活用② 38 地域医療・地域福祉の活用③ 39 地域医療・地域福祉の活用④ 40 地域医療・地域福祉の活用⑤
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	養護内容
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	講義
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	養護を実践している施設の現状を理解し、そこで必要なスキルを学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	広義の養護について全体像を把握する
教科書	社会的養護と障害者保育
特記	
授業計画	1 養護について① 2 養護について② 3 養護について③ 4 養護について④ 5 医療と養護① 6 医療と養護② 7 医療と養護③ 8 医療と養護④ 9 心身の健康① 10 心身の健康② 11 心身の健康③ 12 心身の健康④ 13 生命の保持と情緒の安定① 14 生命の保持と情緒の安定② 15 生命の保持と情緒の安定③ 16 生命の保持と情緒の安定④ 17 自立支援① 18 自立支援② 19 自立支援③ 20 自立支援④
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	音楽・リズム表現 I
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	80時間
授業回数	40回
授業概要	リズムや楽器を活用した音楽を学ぶ
授業の進め方	講義と実技を通して学ぶ
達成目標	音楽リーダーとして、実践できるようにする
教科書	ダルクローズシステムによるリトミック、リズム練習とソルフェージュ1
特記	
授業計画	1 音楽表現① (弾き歌い・リズム遊び) 2 音楽表現② (弾き歌い・リズム遊び) 3 音楽表現③ (弾き歌い・リズム遊び) 4 音楽表現④ (弾き歌い・リズム遊び) 5 音楽表現⑤ (弾き歌い・リズム遊び) 6 音楽表現⑥ (弾き歌い・リズム遊び) 7 音楽表現⑦ (弾き歌い・リズム遊び) 8 季節の歌に合わせたリズム遊戯① 9 季節の歌に合わせたリズム遊戯② 10 季節の歌に合わせたリズム遊戯③ 11 季節の歌に合わせたリズム遊戯④ 12 季節の歌に合わせたリズム遊戯⑤ 13 季節の歌に合わせたリズム遊戯⑥ 14 季節の歌に合わせたリズム遊戯⑦ 15 音楽表現総合① (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 16 音楽表現総合② (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 17 音楽表現総合③ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 18 音楽表現総合④ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 19 音楽表現総合⑤ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 20 音楽表現総合⑥ (弾き歌い・リズム遊び・遊戯) 21 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践① 22 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践② 23 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践③ 24 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践④ 25 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑤ 26 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑥ 27 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑦ 28 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑧ 29 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑨ 30 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑩ 31 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑪ 32 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑫ 33 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑬ 34 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑭ 35 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑮ 36 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑯ 37 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑰ 38 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑱ 39 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑲ 40 音楽に合わせたリズム遊びの基礎実践⑳
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	

授業計画書(シラバス)

タイトル	内容
授業科目	音楽・リズム表現Ⅱ
実務家教員授業	
学部・学科	保育専攻学科
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	40時間
授業回数	20回
授業概要	音楽がもつ様々な効果と音楽教育の重要性を学ぶ
授業の進め方	講義と実技を通して学ぶ
達成目標	リトミックの応用を身につける
教科書	ダルクローズシステムによるリトミック、リズム練習とソルフェージュ1
特記	
授業計画	1 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践① 2 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践② 3 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践③ 4 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践④ 5 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑤ 6 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑥ 7 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑦ 8 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑧ 9 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑨ 10 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑩ 11 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑪ 12 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑫ 13 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑬ 14 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑭ 15 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑮ 16 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑯ 17 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑰ 18 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑱ 19 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑲ 20 音楽に合わせたリズム遊びの応用実践⑳
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と実技試験により評価する。
備考	